



日本集中治療医学会
THE JAPANESE SOCIETY OF INTENSIVE CARE MEDICINE

日本集中治療医学会第7回東海北陸支部会学術集会

会期：2023年6月17日（土）

会場：金沢商工会議所

会長：佐藤 康次（金沢大学附属病院 集中治療部 副部長）

ランチオンセミナー1

もっと人工呼吸、人工呼吸器を知ろう

座長

谷口 巧 先生

金沢大学 医薬保健研究域医学系 麻酔・集中治療医学 教授

演者

サッシャ・スターチェビッチ・カワゾエ 先生

HAMILTON MEDICAL AG Director Marketing and Customer Success



日時

2023年6月17日（土）12:20～13:20

会場

第1会場（金沢商工会議所1階）

Abstract 〈座長 谷口先生より〉

人工呼吸器の進歩により重症な呼吸器疾患だけでなく、他の臓器障害における重症患者においても気管挿管、人工呼吸管理が容易になってきている。実際、人工呼吸器において様々なモード（設定）が開発され、「患者に優しい、苦痛を与えない」を、さらに「医療従事者にも優しい、疲労させない」を目標として、人工呼吸管理ができるように努めてきている。

しかしながら、人工呼吸器の進歩にもかかわらず、医師をはじめとする医療従事者において人工呼吸管理の進歩がなされているのか？

新しい人工呼吸器の設定をみなさんが理解しているのか？ そもそも新しい呼吸器モードがなぜ開発され、どのように使用すればよいのか？ などといった疑問点が存在する。

そこで、本セミナーでは人工呼吸器を開発製造し、販売しているハミルトン社からトップのメンバーを迎え、様々な疑問点に関して解説していただく。

ポイントとして、

- 1) 人工呼吸管理をしている最中に、自発呼吸が出てきた場合、人工呼吸器に同調しなくなり、バックアップ等が繰り返される。何か良い方法はないのか？
- 2) 患者が良くなっていく過程で、深夜の場合など医師がなかなか人工呼吸器の設定を変更してくれない。何か良い方法はないのか？
- 3) 最近、抜管が少し早い気がする状況（酸素化や呼吸器の設定等の問題）で、人工呼吸器から離脱、抜管をすることが多くなってきた。人工呼吸期間を短くしようとするのは理解できるが、抜管後に再挿管しないといけなくなるのが心配だ。何か良い方法はないのか？
- 4) 人工呼吸器の将来の展望

このポイントに関して解説する

尚、演者のSasha Starcevic氏は非常に日本語が堪能であるので、講演は全編日本語で行う予定である。奮ってご参加いただきたい。

共催：日本集中治療医学会第7回東海北陸支部会学術集会／日本光電工業株式会社